

- ▼調査名 「若者メディアライフスタイル調査」
▼調査責任 サントリー株式会社 次世代研究所
▼調査実施機関 株式会社 ヤフーバリューインサイト
▼調査概要

(1) 調査対象者

首都圏、近畿圏、その他エリアに在住の18～25歳の大学生600人

首都圏 : 1都3県(男性100人、女性100人)

近畿圏 : 2府1県(男性100人、女性100人)

その他エリア: 首都圏、近畿圏以外(男性100人、女性100人)

但し、人口100万人以上の都市^(※)はのぞく

※ 札幌市、仙台市、名古屋市、広島市、福岡市

計600人

(2) 調査方法

インターネット調査

(3) 調査時期

2007年6月12日～2007年6月14日

<サントリー(株) 次世代研究所について>

「次世代研究所」は、サントリー(株)の創業90周年を記念して1989年5月に設立した「サントリー不易流行研究所」を名称変更し、研究領域を次世代分野に特化し活動を行っていくために、2005年3月に設立されました。

「次世代研究所」では、研究テーマを“次世代”と“次世代を取り巻く社会”として、子どもや若者、子どもを育む家庭、そして次世代を取り巻く環境について調査・研究を行っています。

以 上

<参考資料>

調査結果から見えてきた“若者のメディアライフスタイル”

若者らしいメディア。メディアの“若者ブランド”

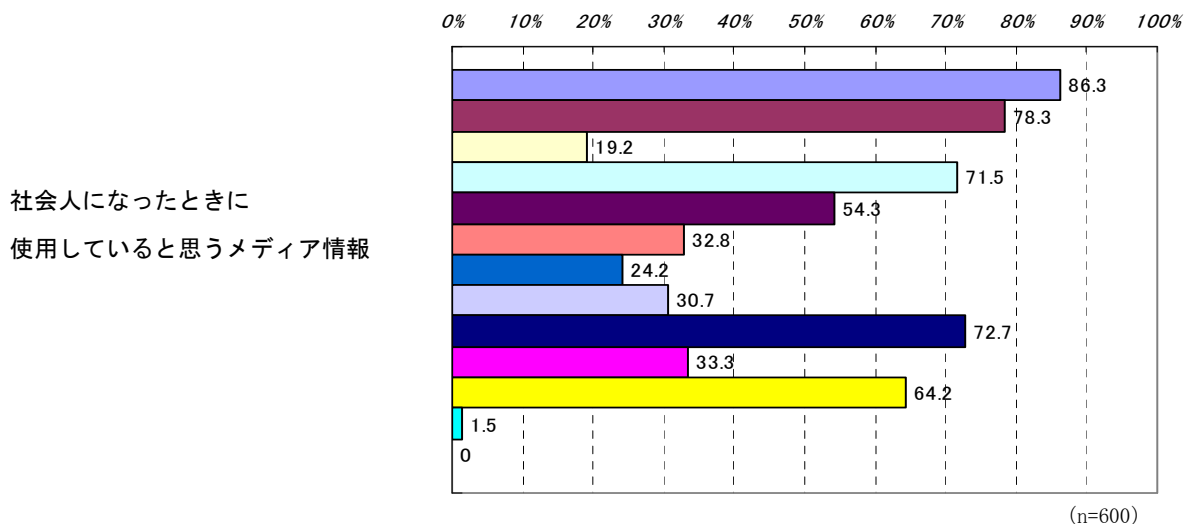
～新聞は社会人になったら読むもの、SNSは今だから使う若者メディア～

「社会人になったときにどんなメディアから情報を得ていると思いますか？」と尋ねたところ、約86%の人が「新聞」と回答。「テレビ番組」「ホームページ・ブログ」を上回り、最も多い。一方で、現時点で毎日「新聞」を読んでいるのは、約3割で、全く読まない人も2割強存在する。

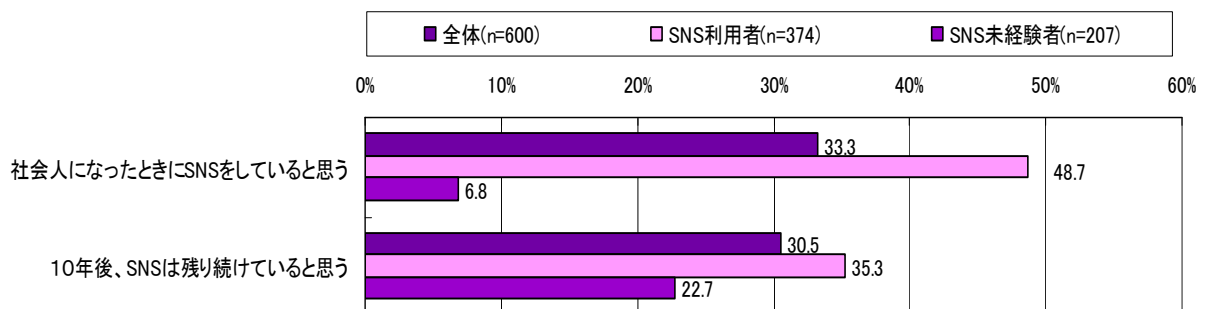
また、近年Mixiに代表されるSNSの利用は急増し、本調査でも男性の56%、女性の69%が利用していると答えている。しかし、社会人になったときに「SNSを使って情報を得ていると思う」と回答しているのは、全体の3割強。現時点でSNSを利用している人だけでみても5割を切り、社会人になってからもSNSを利用して情報を得続けようとは思っていない。

若者たちは、今のメディアライフスタイルを将来も続けようと考えておらず、今しか使えない、メディアの“若者ブランド”を意識的に利用していると言える。

■自分が社会人になったときにどんなメディアから情報を得ていると思うか。（複数回答）



■現在の SNS 利用有無による社会人になったときの SNS 利用と、10年後の SNS 存続に関する意識比較



テレビは情報価値より存在価値

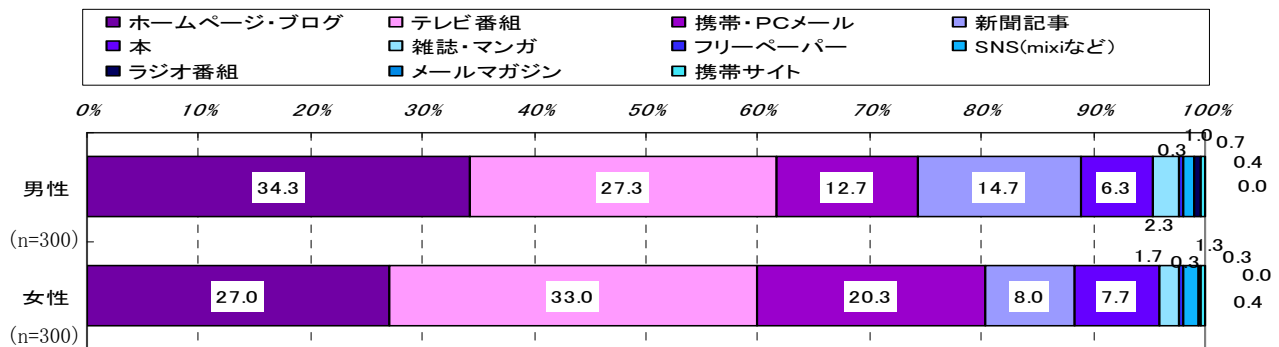
～女性はテレビ離れ?! しかし、大切なメディア情報のトップは「テレビ」～

携帯やパソコンを毎日使う人が9割を超えるなか、テレビを毎日見ている人は全体の8割弱。1年前に比べてテレビを見る頻度は「減った」と答えている女性は全体の37%と「増えた」と答えた女性の2倍以上存在する。女性を中心にテレビ離れの傾向がみえる。

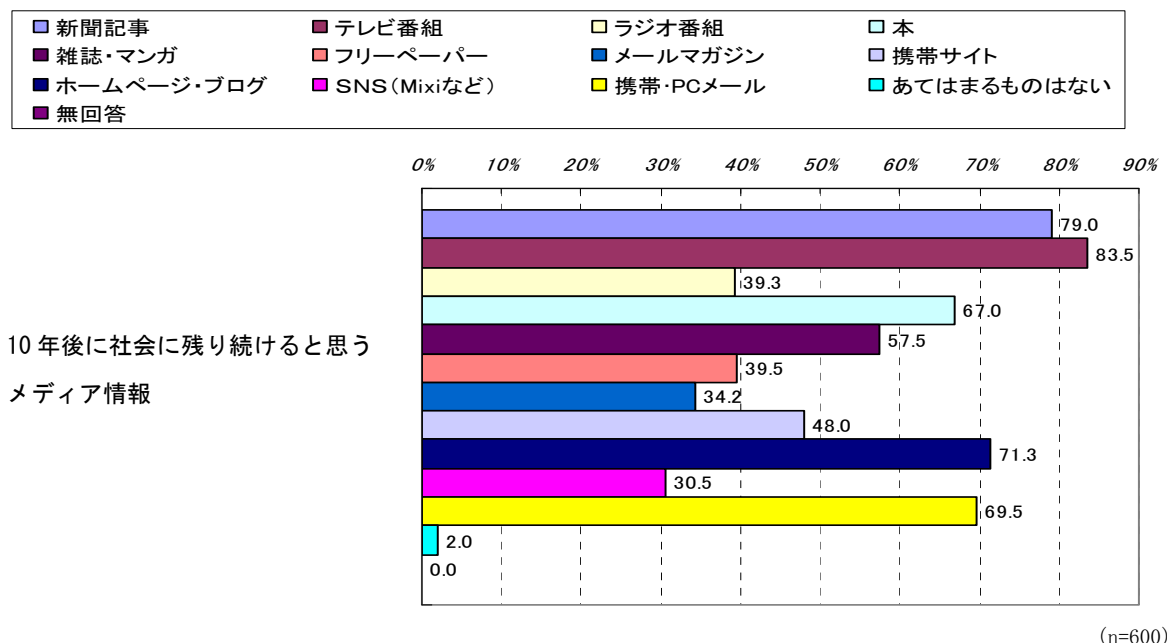
しかし、「今、メディア情報を3つまでしか使えなくなったら何を選びますか?」と聞くと、男性はホームページ・ブログが最も多いが、女性は3人に1人(33%)がテレビと答えている。

また、「10年後社会に残り続けると思うメディア」についても約84%の人がテレビと答えトップ。新聞(79%)、ホームページ・ブログ(71%)よりも多い。テレビを見なくなっている理由としては、「やらせ感が見える」「おもしろいテレビ番組が減っている」などの意見もあるが、「なんとなくみてしまう」と言う意見も多い。テレビは若者にとって情報価値より、存在価値のあるメディアとして支持されているようだ。

■今、以下のメディア情報の中で3つまでしか使えなくなったら何を一番に選ぶか。



■10年後、社会に残り続けると思うメディア情報はどれですか。(複数回答)



情報が溢れる今の社会において、若者は情報を使いこなせているか？

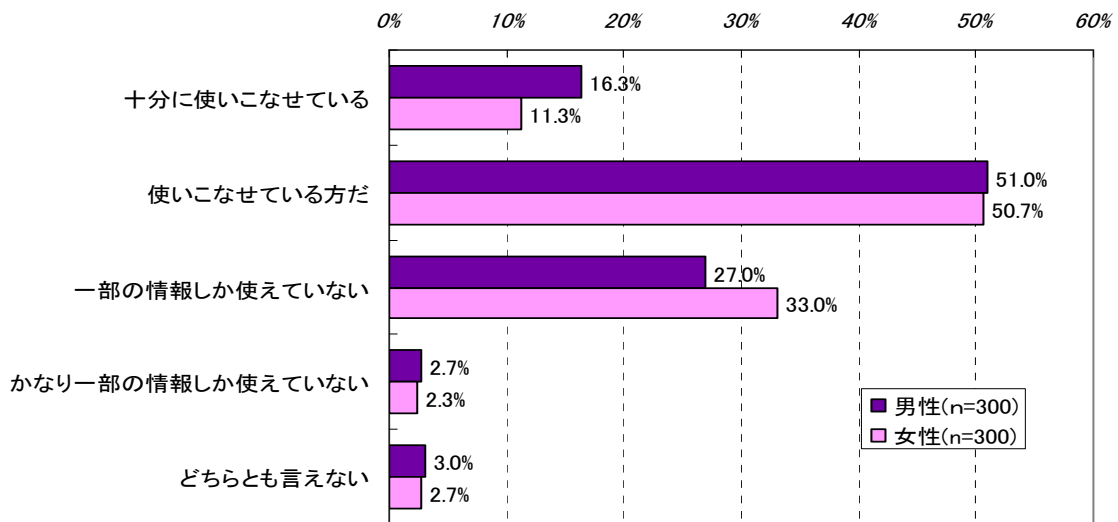
～若者は情報に受け身。偶然受けた情報に満足～

情報化社会と言われるようになり、私たちが手にすることが出来る情報は確実に増えている。しかし、男性の67%、女性の62%が「自分は有用な情報を使いこなせている」「十分使いこなせている」と回答している。

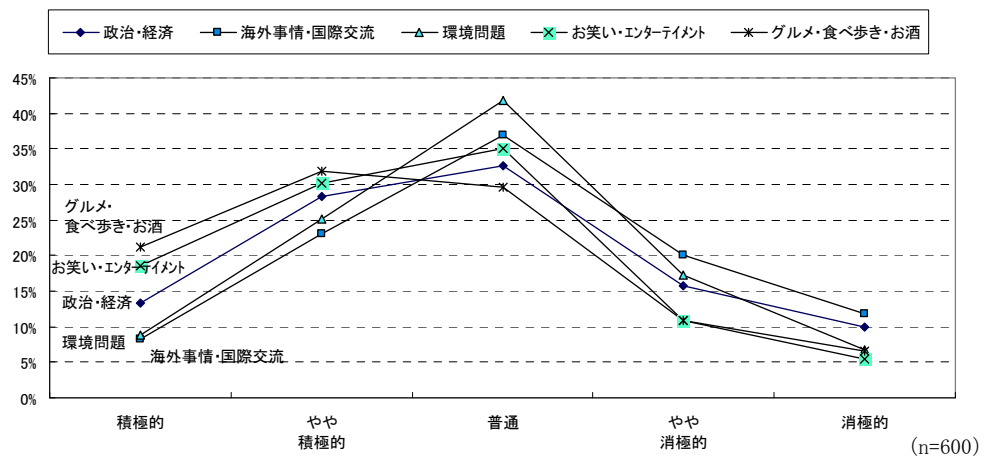
一方で、メディアを使って情報を得ることに積極的かどうかたずねたところ、比較的積極的に情報を得ているのは「グルメ・食べ歩き・お酒」などの情報だけであり、「政治・経済」「お笑い・エンターテイメント」など大抵の項目は積極的でも消極的でもなく、「普通」という回答が多い。

若者は情報利用に自信を持っているが、情報を得る姿勢は受け身であり、偶然手にした情報に満足していることがうかがえる。

■メディアを使うにあたり、自分は有用な情報を使いこなせていると思うか。



■メディアを使って、次の情報を得ることに積極的か。消極的か。



以上